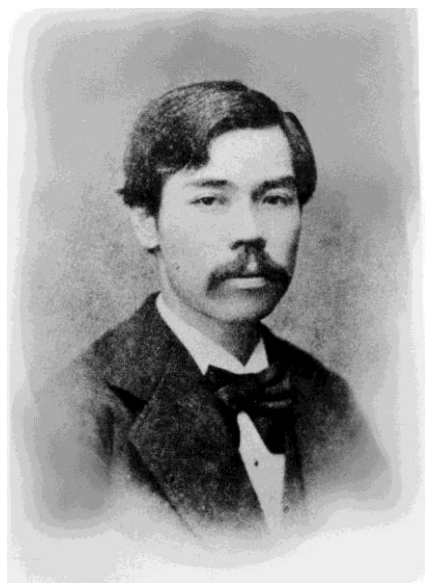


第2回信州知の連携フォーラム（2018.2.22）

田中芳男という試金石



青木隆幸

飯田市美術博物館

歴史館は歴史情報の発信地

けれど、やっぱり

情報の終着点ではないかと思う

たくさんの情報の終着点がリアルに見える場所



対話しつつ学ぶ



古文書に触れる

↑ティーンズ講座



愛好会演習→

最後はFace to Face（顔が見える）

歴史館は歴史のホンモノを見せる、語る場所

想いが伝わらなければ、人は納得しない

情報の終着点で、笑顔や涙と出会う



平成24年満州移民展

真剣なまなざし
たくさんの笑い声
そして、涙

歴史館(博物館)に勤める喜び

情報の終着点、つまり人に出会っているから

AIもMLAも、所詮人間が作っている

「人間とはどういう生き物なのか？」から始めよう

【赤ちゃんの前にボールを転がしてみる】

振り返る仕草の中に人間の尊厳がある

【夜空のむこうには何があるか】

「明日が待っている」とSMAPは答えた

知は、前方に向けられるだけではない

「夜空のむこう」(=明日)を想像する力は
振り返ることから生まれる

||

歴史館(博物館)の立ち位置

「赤ちゃんが振り返る、そのほんの一瞬の行為
の中に私たちの居場所はある」のでは

「コンテンツの再価値化」

誰に、何を発信することなのか
誰を、どのように動かしたいのか

【テーブルに一枚の地図を置いてみる】

データは4つ。あなたは何を発信し、どう行動しますか？



(長野県立歴史館) 湊村 (明治8年(1875)10月成立)

テーブルに一枚の植物図画を置いてみる

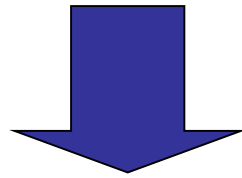
MLAならどう切り込むか？

MLAが生み出そうとする力とは？

「博物館の父」田中芳男の挑戦

冬季展「田中芳男—「虫捕御用」の明治維新」ご覧になった方いますか？

どこまでも身近なモノをみつめる



文化財は

愛されてこそ文化財、愛されてこそ生活の一部になる

私が好きな田中芳男



(神宮徴古館農業館)

魚を形どったラベル立て

「付け札の名前なども、むずかしい字が書いてあつては分からぬ。知らぬ人は仕方ない、貴様のほうが悪いのだという」(田中芳男「経歴談」)

芳男は徹底的にわかりやすさを求めた

情報の終着点是人

誰を動かしたいのかを想像する力が大切だ

どこまでも人とモノに寄り添う信念



木材標本



「ここに芳男がいる」、
「ここにMLAの原点がある」
そんな気がする

照葉はなぜリンゴの皮をむくのか

(いづなアップルミュージアム)



明治後期

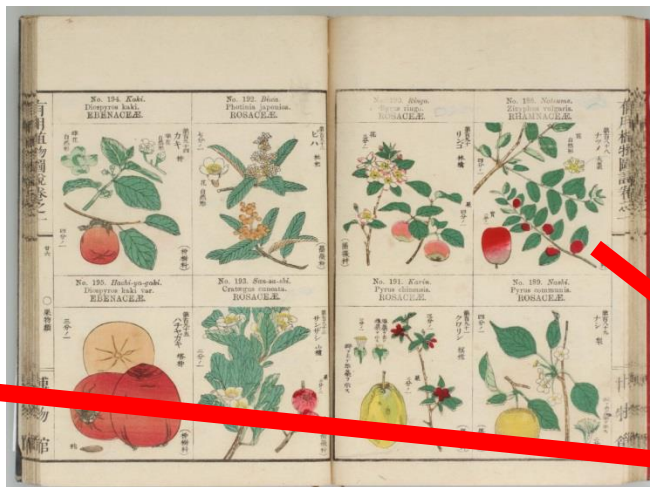
新橋芸妓照葉

絵はがき

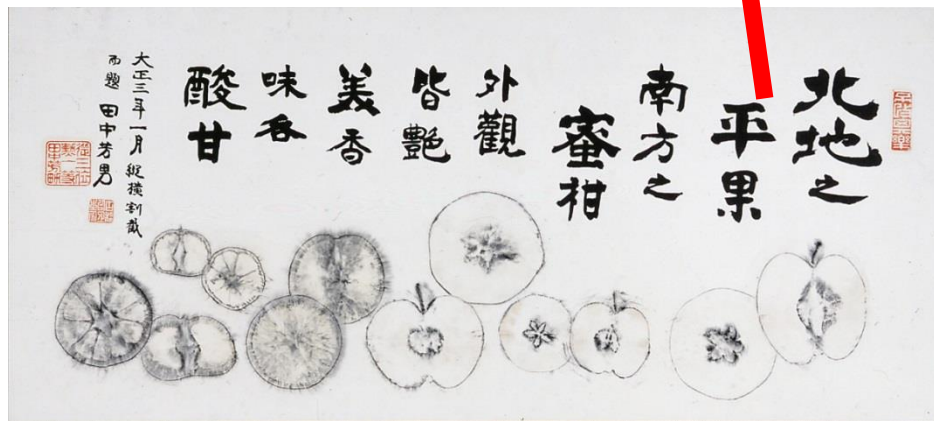
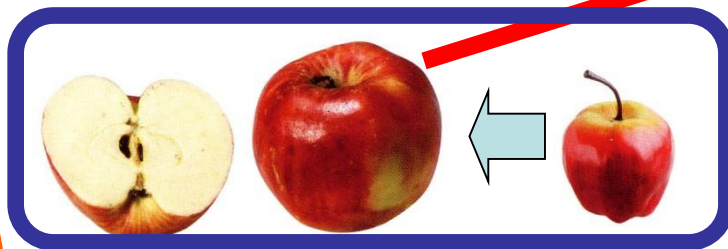
(飯田市美術博物館)

果物之美觀者文明之裝飾
 果物之美味者開化之食餌

明治三十五年五月五日
 田中芳男書

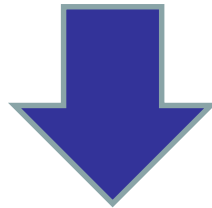


(飯田市美術博物館)



(飯田市美術博物館)

Mの、Lの、Aの、
すべての営みの終着点が彼女の手の中にある



私たちのMLAは
「照葉のリンゴ」を作り出せるか？

筑摩県絵図は、あなたを、
そしてまだ見ぬ「照葉」を待ち続けるだろう

そのために、歴史館(博物館)はホンモノを
大切に保存する使命がある





そして、Face to Faceで学び合う場を作る使命がある

私たちはホンモノを大切に保存し、語り、学び合う

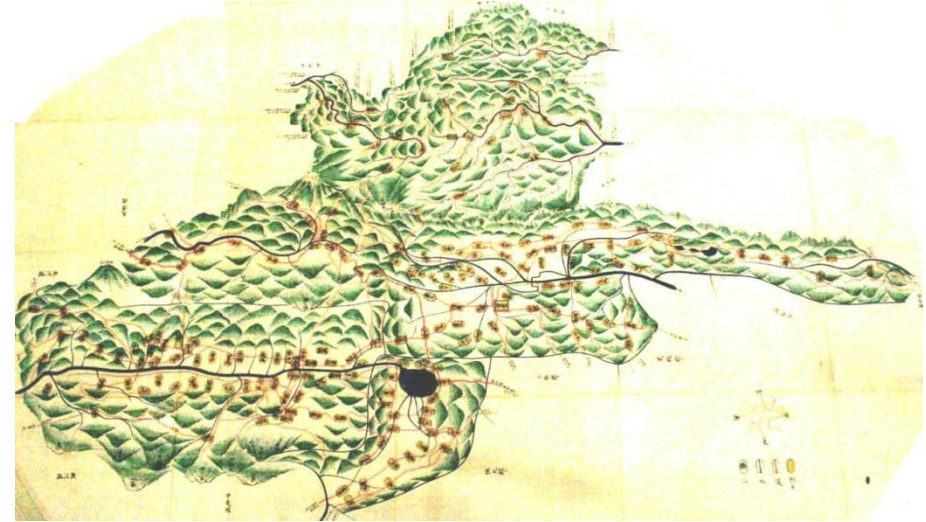
人と対話する

心を動かす

読み解く人を育てる

「夜空のむこう」を作り出す

そんな歴史館でありたい



MLAもそうあってほしい